

事業名 (箇所名)	複合一貫輸送ターミナル(改良)事業 (舞鶴港 前島地区)		担当課 担当課長名	港湾局計画課 宮崎 祥一	事業 主体	近畿地方整備局																																					
実施箇所	京都府舞鶴市																																										
該当基準	再評価実施後一定期間(3年間)が経過している事業																																										
主な事業の 諸元	岸壁(改良)(水深9m)、航路・泊地(水深9m)、泊地(水深9m)、埠頭用地																																										
事業期間	事業採択	平成19年度	完了	平成28年度																																							
総事業費(億円)	50		残事業費(億円)	14																																							
目的・必要性	<p>&lt;解決すべき課題・背景&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>船舶の老朽化や日本海側の荒天時における航行の安全性の向上のため、先行して大型船を導入しており、水深が浅く喫水調整による非効率な運航を余儀なくされている。</li> <li>現行フェリーに必要な水深・岸壁延長を確保し、効率的な運航及び船舶荷役等の安全性の向上を図る必要がある。</li> </ul> <p>&lt;達成すべき目標&gt;</p> <p>複合一貫輸送ターミナルを改良整備することにより、喫水調整が不要となるため、輸送の効率化を図り、合わせて荷役等の安全性を確保する。</p> <p>①貨物輸送の効率化 ②船舶係留時の安全性の向上</p> <p>&lt;政策体系上の位置付け&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政策目標: 国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化。</li> <li>施策目標: 海上物流基盤の強化等総合的な物流体系整備の推進、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保を推進する。</li> </ul>																																										
便益の主な 根拠	フェリー貨物の輸送コスト削減(平成28年度予想取扱貨物量: 498万トン/年) フェリー旅客の移動コスト削減(平成28年度予想旅客数: 74,350人/年)																																										
事業全体の 投資効率性	基準年度		平成26年度																																								
	B:総便益 (億円)	69	C:総費用(億円)	51	全体B/C	1.4	B-C	18	EIRR(%)	5.6%																																	
残事業の投資 効率性	B:総便益 (億円)	69	C:総費用(億円)	12	継続B/C	5.7																																					
感度分析	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">事業全体のB/C</td> <td colspan="8" style="text-align: center;">残事業のB/C</td> </tr> <tr> <td>需 要 (-10% ~ +10%)</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">( 1.2 ~ 1.5 )</td> <td colspan="8" style="text-align: center;">( 5.1 ~ 6.3 )</td> </tr> <tr> <td>建 設 費 (+10% ~ -10%)</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">( 1.3 ~ 1.4 )</td> <td colspan="8" style="text-align: center;">( 5.2 ~ 6.3 )</td> </tr> </table>											事業全体のB/C		残事業のB/C								需 要 (-10% ~ +10%)	( 1.2 ~ 1.5 )		( 5.1 ~ 6.3 )								建 設 費 (+10% ~ -10%)	( 1.3 ~ 1.4 )		( 5.2 ~ 6.3 )							
	事業全体のB/C		残事業のB/C																																								
需 要 (-10% ~ +10%)	( 1.2 ~ 1.5 )		( 5.1 ~ 6.3 )																																								
建 設 費 (+10% ~ -10%)	( 1.3 ~ 1.4 )		( 5.2 ~ 6.3 )																																								
事業の効果 等	<p>当該事業を実施することにより、</p> <p>①海上輸送時間の短縮等が見込まれ、輸送コストの削減が図られる。</p> <p>&lt;貨幣換算が困難な効果等による評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の信頼性の向上</li> <li>港内の安全性向上</li> </ul>																																										
社会経済情 勢等の変化	特になし。																																										
主な事業の 進捗状況	総事業費49.6億円、既投資額35.7億円 平成26年度末現在 事業進捗率72%																																										
主な事業の 進捗の見込み	事業が順調に進んだ場合には、平成28年度の完成を予定している。																																										
コスト縮減や 代替案立案 等の可能性	特になし。																																										
対応方針	継続																																										
対応方針理	効率的な事業の実施を図ることによって十分な事業の投資効果があると判断されるため。																																										
その他	<第三者委員会の意見・反映内容> 対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断。																																										

# 舞鶴港 前島地区複合一貫輸送ターミナル(改良)事業

